

第34回 法人会全国大会福井大会の報告

平成29年10月5日(木)に第34回法人会全国大会福井大会が福井市の福井県産業会館で開催され、全国から約1,700名が参加しました。

第1部では「今後の政治と経済の行方」と題して毎日新聞専門編集委員の与良正男氏の記念講演があり、衆議院解散総選挙の話題に終始しておられました。同氏によると、北朝鮮情勢が緊迫するなか、また臨時国会冒頭解散を強行したが、このタイミングには問題がある。今回の選挙は政権選択選挙といわれているが、一義的には安倍政権のアベノミクスを始めとする5年間の総括および、更に今後4年間安倍政権を続けるか否かを選択する選挙である。といった内容のお話をいただきました。

第2部の大会式典では、公益社団法人福井県法人会連合会の伊藤忠昭会長の開会の辞、主催者を代表して小林栄三全法連会長の挨拶に続き、佐川宣寿国税庁長官ほか来賓の祝辞、会員増強表彰等の授彰式を経て平成30年度税制改正に関する提言の要旨が発表されました。

提言要旨は、真の財政健全化を達成するためにはプライマリーバランス黒字化に向け規律ある具体的な道筋を明確に示し、着実に実行することが重要である。社会保障制度においては、医療と介護の給付急増が見込まれるなか、これを「重点化・効率化」によって可能な限り抑制するとともに適正な「負担」を確保する必要があること。中小企業の技術革新など活性化に資する税制措置の拡充を図ること。中小企業にとって円滑な事業承継に資するため事業用資産を一般資産と切り離した本格的な事業承継税制を創設する必要があること等が柱となっています。続いて、昨年 of 全国青年の集いにおける発表で最優秀賞を受賞した鹿屋肝属法人会青年部会による租税教育活動の報告があり、最後は、「平成30年度税制改正に関する提言」の実現を強く求める大会宣言で締めくくられました。

第3部の懇親会では、郷土料理や米どころならではの美味しい地酒が振舞われ、大いに舌鼓を打ちました。和やかな雰囲気の中、会員交流、情報交換が盛んに行われ、来年の鳥取大会での再会を約して大会の幕を閉じました。